

WaBuB PFM News

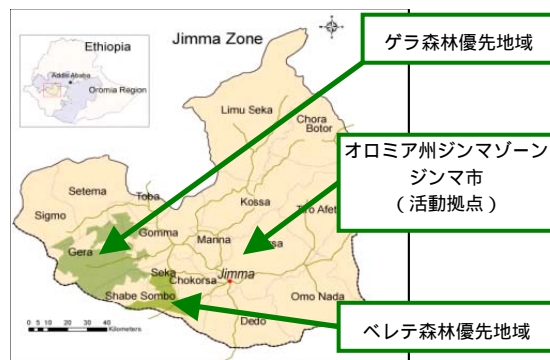
~ Respect Local People's Knowledge for Sustainable Forest Management ~



JICA 技術協力プロジェクト

エチオピア ベレテ・ゲラ参加型森林管理計画フェーズ2

2008年7月20日発行 (第20号)



今年のコーヒーはどうでしょう？

雨の恵みを受けながら、コーヒーが大きな実をつけ始めています。雨の降り始めが遅れたことによる影響も懸念されましたが、今のところ昨年よりも多くの実をつけている所がほとんどのようです。これから10月頃にかけて徐々に赤く色づき始め、質の高いコーヒーができるのを、ベレテ・ゲラの農民達は心待ちにしています。昨年度から始まった森林コーヒー認証プログラム(第11&12号参照)も、今年は対象集落を大きく広げて実施する予定で、着々と準備を進めています。今号では、昨年度の課題や今年度の展望など、森林コーヒー認証の拡大に向けた取り組みの様子を主にお伝えします！



徐々に色づき始めるコーヒー

WaBuB 代表者とコーヒー輸出業者による協議を実施！-今年度の展開は！？-

WaBuB 森林コーヒー認証プログラム(WFCCP)では、住民が適切に森を保全管理しながらコーヒーを生産し、収入を向上できるような仕組みを作ることをねらいとしています。ベレテ・ゲラ森林優先地域内で WaBuB が組織化され、かつコーヒーが生えている集落(標高2000mくらいまで)を対象に、国際的な林産物の認証機関である Rainforest Alliance (RA)の認証を受けるためのサポートをプロジェクトが行います。また、認証を受けた集落のコーヒーが市場価格よりも高値で買い取られるよう、コーヒー輸出業者との橋渡しをし、WaBuB と輸出業者によるビジネス・パートナーシップの構築も支援します。

今年度のプログラム開始に先立ち、昨年度コーヒー認証を取得した2村(3集落)の WaBuB 代表者とRAエチオピア担当者、コーヒー輸出業者の参加の下、昨年度のビジネス・パートナーシップにおける課題や改善点について協議をしました。その際、WaBuB 代表者から主に以下のような要望が出されました。

- 1) 昨年度行ったレッドチェリー(摘み取ったばかりの赤い実)の買い取りは手間がかかる(何度も買い取りゲートへ運ばなければならない、乾燥した重量に換算して買い取られるなど)ため、今年度は農民達が各自で摘み取り・乾燥をした後で、乾燥コーヒーとして買い付けをして欲しい。
- 2) メンバーの登録や踏査など書類作業が煩雑であるため、識字率の低さも考慮したフォーマットの簡素化が必要。
- 3) 市場価格に上乗せして支払われるプレミアム価格については、買い付け時に一括して払うのではなく、輸出業者が実際に売却した後、得られた利益に基づいて算出して支払いしてほしい。
- 4) 昨年までは伝統的なローンシステム(現金の少ない4-6月に地元のコーヒー仲介業者からお金を借り、コーヒーを売ったお金で返還する)があったが、今年は業者に借金を頼むことができず困っている住民がいる。

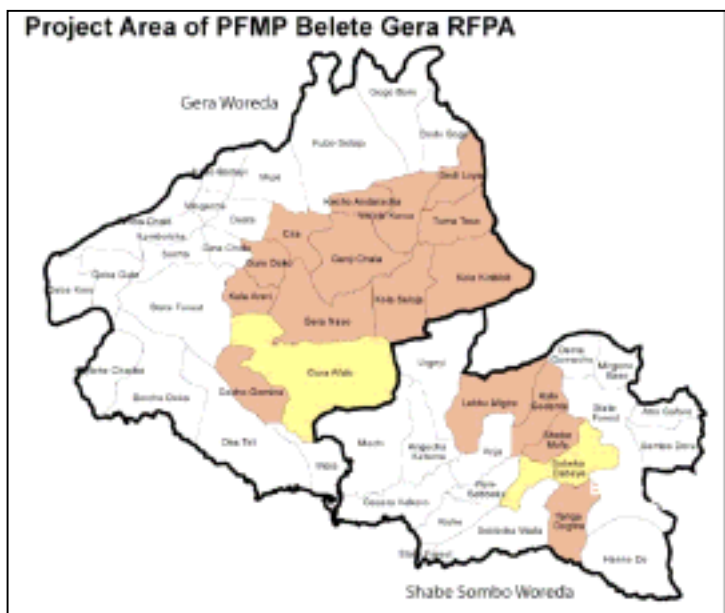
コーヒー輸出業者からのコメントとしては、「乾燥コーヒーの買い取りには問題ないが、品質の確保が条件となる。プレミアムの支払い等についても農民の要望を満たす準備はあるが、高品質の乾燥コーヒーが提供されることが何より前提となる...」といった内容でした。確かに輸出業者にとっては、農民から買い付けたコーヒーが海外の業者から買い取ってもらえなければ利益が得られません。そのためには、質の高いコーヒーを提供することが不可欠です。これまでベレテ・ゲラ地域の伝統的な方法として、レッドチェリーだけでなく未だ熟していない緑の実も一緒に収穫(森林コーヒーのエリアが広いので、レッドチェリーだけを選ぶのは時間がかかる)し、軒先の地べたに広げて乾燥させていました。これでは通期が不十分で湿気が残っているため、カビが多く生えます。通期のいい金網や竹マットなどの上で、定期的にかき混ぜながら万遍無く乾燥させることが、品質の向上には欠かせません。昨年度はパイロット的に3集落だけであったため、金網によるコーヒーベッドの提供なども行いましたが、今年度は対象集落も農民の数も相当に増え、来年度のことも考えるといつまでも物的支援を行うのは限界があります。まずは農民自身が質についての意識をしっかりと持ち、地元の資源を利用するなど質の向上を図る方法・仕組みを共に考えていく必要があります。



品質の確保が今後のパートナーシップに不可欠！

今年度の対象集落は？

第1ラウンド(1年目)で WaBuB 組織化を達成した 30 集落の中、森林コーヒーのある 19 村(21 集落)を今年度の対象としました。昨年度が 3 集落でしたので、約 7 倍にまで拡大します。メンバーの登録や踏査に関わるサポートの他、認証に関わる審査の仕組み、その後の業者による買い付けの方法など、これまで以上に綿密な計画策定の他、関係者間の協力、そして何より WaBuB メンバー達自身の自助努力が不可欠となります。



「コーヒー認証プログラム対象地域」(茶色が新規対象村、黄色は昨年度からの継続参加)

認証に向けたトレーニング開始！

認証に向けた取り組みの第1歩として、WaBuB メンバーを代表してプログラムを促進する農民へのトレーニングを開始しました。認証の獲得には、集落内の内部監査システム(ICS)が確立され、適切に機能していることが重要な基準となります。各 WaBuB のICSメンバーが主体となってプログラム参加者の登録を行い、各参加者が森林保全に留意して適切なコーヒー栽培を行っているか、収穫量の見積もりはどのくらいか等、実際に森も廻りながら確認をします。そうした中核を担う ICS メンバーを各 WaBuB から 7 名選出(読み書きできることが不可欠)してもらい、計 3 日間のICSトレーニングを行いました。

ICSトレーニングのプログラムは下のようになっています。

1 日目	午前	ICS 全体の流れ
	午後	生産量の確認方法、コンプライアンス
2 日目	午前	誓約書作成、森林地図作成
	午後	フィールドトレーニング: II & PE
3 日目	午前	グループごとの発表
	午後	まとめ

*II: Internal Inspection, PE: Production Estimate

1 日目は ICS 全体の流れ、生産量の確認方法、認証物を非認証物と区分して保管することの重要性について説明します。ここで「ICS って何だべ」という顔つきで入ってきた農民が矢継ぎ早に質問をトレーナーに浴びせ、だんだん「ふーん」という顔つきに変わり、理解していく様子がありました。



コーヒー認証内部監査(ICS)トレーニングに真剣な農民たち

2 日目は、実際の認証に必要な各 WaBuB の誓約書を作成し、認証への参加意志を確認します。午後のフィールドトレーニングでは、認証の確認事項を記載したチェックシート形式の Internal Inspection を手にしてコーヒー林に入り、実践形式で内部監査を経験します。そうすると、研修を聞いているだけではわからなかったことが噴出してきました！大丈夫でしょうか？



3 日目は、2 日目のフィールドトレーニングで気づいたことなどをグループでまとめて発表します。こうして無事？ICS を修了し今度は各自の村に帰ってメンバーに説明しなければなりません。ふーん。

各 WaBuB でのICS協議

ICSトレーニングの後、いよいよ各 WaBuB での作業に入ります。まずは、ICSメンバーが中心となり、この森林コーヒー認証プログラムの内容や手続きについて、WaBuB メンバー全員に周知してもらう必要があります。今年度対象集落 21 集落の中の1つであるラックミギラ村アルサ集落で行われたICS協議に同席しました。

協議には各世帯の長である男性約 60 名が集い、ブザイヨ普及員とICSメンバーが交代で、森林コーヒー認証プログラムの趣旨から登録手続き方法に加え、申請に必要とされる所有するコーヒー林の面積など項目の1つ1つについて、時間をかけて説明していきます。日本であれば、資料を渡して「よく読んでおいてね...」で済むかもしれませんが、農民のほとんどが読み書きができないため、口頭による詳細な説明がどうしても欠かせません。住民の側も真剣に聞きながら、「登録料は何に使われるんだ？」「森から庭先に植え替えたコーヒーでも申請できるのか？」「どんなメリットがあるんだ？」などなど、疑問に思うことはその場で尋ねます。最初は不審そうな様子だった農民達も、ICSメンバーの真摯な回答に理解を示し、最後は「すばらしい！」と、拍手喝采で協議を終わりました。しかし、本当のスタートはこれから。10 月に予定されている RA の監査に向けて、約 120 メンバー各自の登録や踏査といった作業を自分達で進めると同時に、品質を確保するための方策を考えていくことが求められています。



コーヒー認証って何だべ？